

災害発生

1.災害発生時

p.14：本校周辺における大規模地震の基礎知識

p.15：大規模地震の安全確保

p.16：授業中の大規模地震の緊急対応フロー(一次避難まで)

p.17：大規模災害における緊急対応(校外活動時)

p.18：大規模災害における緊急対応(登下校時)のフロー

p.19：大規模災害における緊急対応(校外活動時)のフロー



◆本校周辺における大規模地震の基礎知識

学校の立地条件

標高	：	約0.5～1 m
海岸からの距離	：	約1 km
校舎	：	4階10 m
屋上	：	14 m



◆災害予想※想定なのでこの数値より大きく、被害が大きくなることも想像すること

震度	：	7以上
地震継続時間	：	2.5～3分
津波による浸水	：	3～5 m
津波到達時間	：	40分 ※30 cmの浸水で避難困難

学校周辺地域は液状化の危険性が大いにある。



◆校内避難場所

- ・原則1・2号館の4階が避難先
- ・避難の際、2階以上の渡り廊下は使用しない

避難が困難な場合

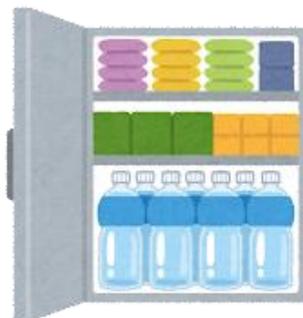


- ・最寄りの校舎の最上階
- ・体育館2階



◆備蓄品保管場所

- ・1号館4F 塔屋
- ・2号館4F CAD準備室
- ・体育館3F 東側
- ・体育館3F ステージ側



◆大規模地震の安全確保



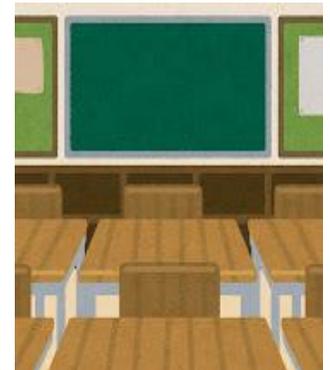
安全確保の基本

授業中の対応	休み時間、放課後等の対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ 近くの窓、壁と反対側に頭を向けさせる ・ 机の下に潜らせ、机の脚をしっかりとせる ・ 教職員は冷静に的確な指示を与える ・ 安心させるような声かけを続ける ・ 火を消す。ガスの元栓を閉める ・ 電気器具のコンセントを抜く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員が居なくても生徒自らが助け合い、安全確保出来るよう日頃から指導しておく ・ 揺れが終息し安全が確保された後、教職員は生徒のもとへ急行、安否確認、避難行動準備

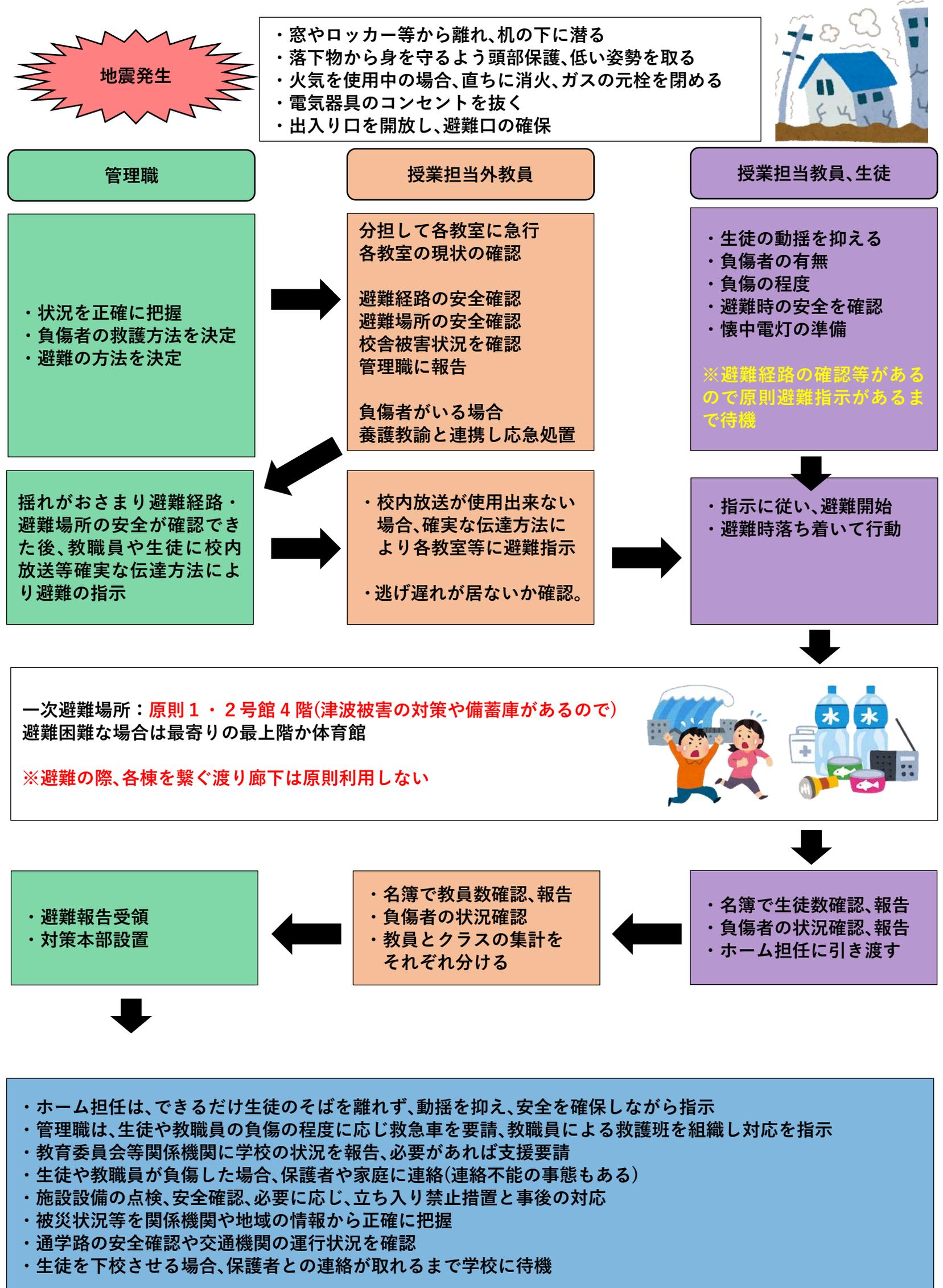


場所別の初期行動

場 所	具体的な行動
教 室	近くの窓、壁と反対側に頭を向ける 机の下に潜らせ、机の脚をしっかりとつ
特別室	危険物から離れる (機械、実験器具、棚、工具、テレビ等)
体育館	体育器具や窓ガラスから離れ、中央部に集まる 頭部保護、低姿勢の維持
階段や廊下	窓ガラス、蛍光灯の落下を避け、中央部で低姿勢の維持 近くの教室の机の下に潜る
トイレ	ドアを開け、頭部を保護して動かずにいる
運動場・校舎外	校舎等からのガラスの飛散や外壁の崩壊、 フェンスや体育器具等崩壊の危険性のあるものから離れる 姿勢を低くする



◆授業中の大規模地震の緊急対応フロー(一次避難まで)



◆大規模災害における緊急対応(校外活動時・在宅時)



予想される状況

- ・強い揺れの際は立つこと、歩行も困難
- ・建物や電柱等の倒壊で電線の破断
- ・瓦や外壁や看板の落下や窓ガラス飛散
- ・塀や石垣や自動販売機等の倒壊
- ・液状化で泥水や砂の噴出
- ・液状化で建造物の傾斜や道路の陥没
- ・傾斜地は、山崩れ・崖崩れが発生
- ・海岸部は、津波の危険性
- ・道路の地割れ
- ・プロパンガスの漏洩



◆緊急時の情報収集方法



緊急時の情報収集方法

被害の状況や生活に関連する情報を正確に入手できる手段が大切

災害時に必要な情報源(自分にあった情報の入手方法を選んで用意)

- ・テレビ
- ・ラジオ
- ・スマートフォン
- ・地域の防災無線
- ・県や市町村の広報 など

※誤った情報や出所の分からない情報に惑わされないように注意



◆災害時に必要な情報



緊急時の情報収集内容

- 各地の被害の状況
- 被害の予想
- 交通手段・電気・水道・ガスなどの復旧の状況
- 気象庁が発表する警報や注意報、気象情報



※ただし避難行動に関しては、特に津波の危険性が高い大地震の場合など、情報を待たずにまず安全な高台へ！空振り OK、見逃し NG

◆安否情報や集合(避難)場所などの確認

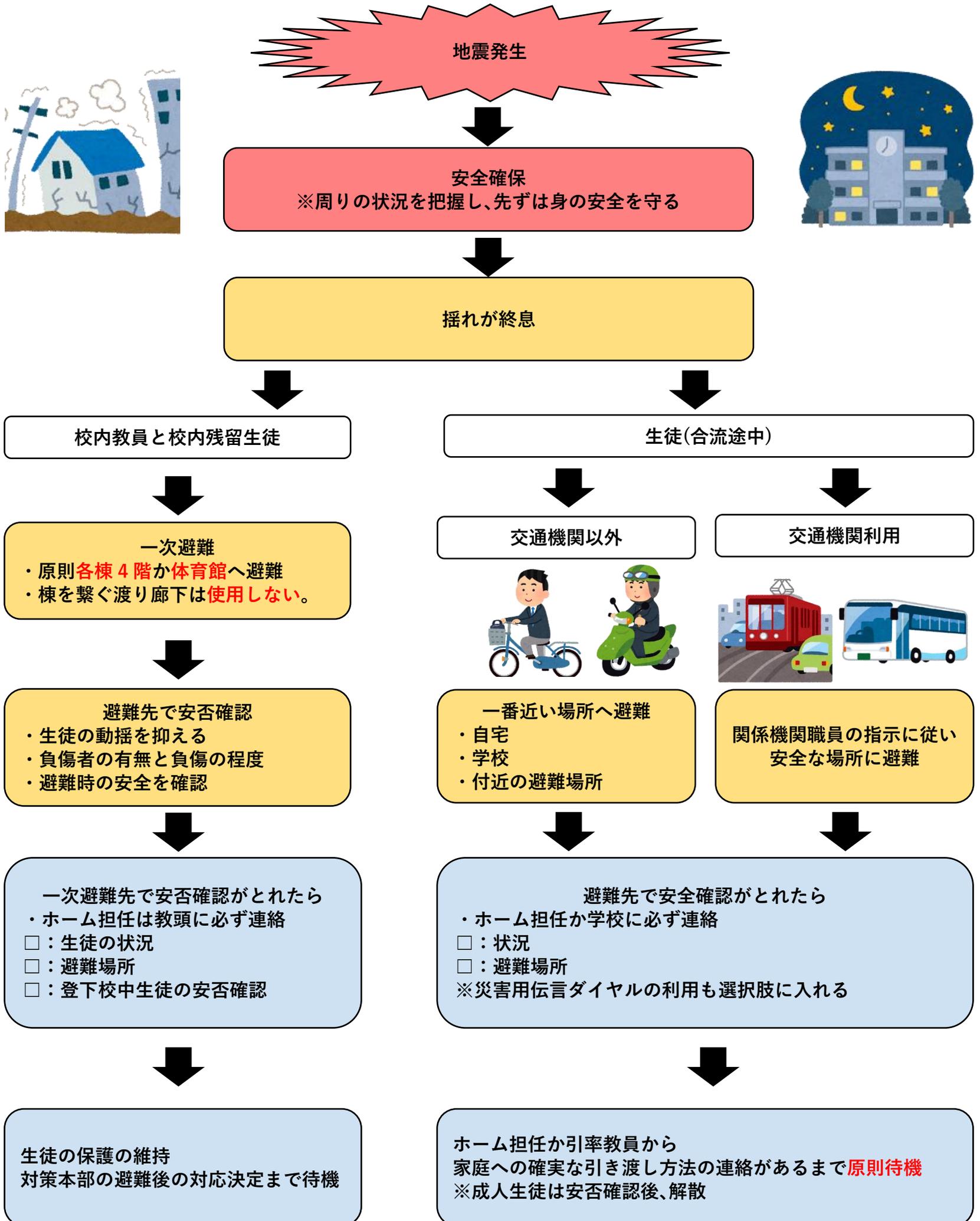
災害時は携帯電話がつながりにくく安否確認や避難場所の確認に時間を有する

- ①：すぐーる
- ②：緊急連絡網
- ③：災害用伝言ダイヤルを利用

※生徒個々の避難場所については生徒理解カードに記載
避難用持出袋にて管理(職員室入口棚に常備)



◆大規模災害における緊急対応(登下校時の対応)のフロー



◆大規模災害における緊急対応(校外活動時の対応)のフロー

